SMISEC011-1



V7.2 for VMware

導入の手引き

NECソフト

本書の一部あるいは全部について、NECソフト株式会社の事前の承認なく、 複製、転載することを禁止します。

2011-May-20 AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware

目	次
н	シ

1. はじめに		5
1.1. AddF	Pointについて	6
1.1.1.	システム構成	
1.1.2.	動作環境	
<u> </u>		-
2. 導人		9
2.1. ライセ	ンス申請	10
2.1.1.	GUARDIANWALLのライセンス申請	10
2.2. 導入	準備	11
2.2.1.	vSphere Serverへのログイン	11
2.2.2.	仮想アプライアンスのインポート	13
2.2.3.	メモリの追加	19
2.2.4.	ディスクの追加	21
2.2.5.	複数のネットワークインタフェースの使用	26
2.3. AddF	Pointのセットアップ	28
2.3.1.	セットアップの流れ	
2.3.2.	システム設定画面への接続	29
2.3.3.	システム設定開始	
2.3.4.	システム管理者設定	31
2.3.5.	ネットワーク設定	
2.3.6.	hostsファイル設定	34
2.3.7.	アクセス制御設定	35
2.3.8.	メール転送設定	
2.3.9.	GUARDIANWALL設定	
2.3.10.	設定内容確認	40
2.3.11.	システム再起動	40
2.4. AddF	Point Manager	41
3 注音重百		42
		······································
3.1. 注意	事項	43
3.1.1.	VMware vSphereに関連する注意事項	43

AddPointに関連する注意事項......43

GUARDIANに関連する注意事項......43

3.1.2.

3.1.3.

4. 付録…		45
4.1. 仮	想マシン関連	46
4.1.1.	VMware Toolsのインストール	46
4.2. クジ	ライアントPC関連	
4.2.1.	クライアント PC のネットワーク設定	48

1. はじめに

本書では、お客様が初めて本製品を利用されるにあたって、導入の手順を解説しています。本書をよく読んでから、作業にあたってください。

1.1. AddPointについて

本書では、お客様が初めて本製品を利用されるにあたって、AddPoint/MailWallServer for VMware(以下 AddPoint と表記)のインストール DVD に格納している仮想アプライア ンスをインポートする手順と、運用するための初期セットアップについて説明します。 VMware 関連製品の使用方法については、VMware 製品のマニュアルを参照してくださ い。

仮想アプライアンスとは、事前にオペレーティングシステムとアプリケーションがインストールされた仮想マシンです。本製品は、Linux OS にメールセキュリティソフトウェア「GUARDIANWALL」をインストールした仮想アプライアンスサーバであり、製品添付のインストール DVD に格納しています。

1.1.1. システム構成

AddPoint/MailWallServer for VMware は、VMware vSphere 製品上で利用可能な製品 です。本製品のご利用にあたって VMware vSphere 環境を用意してください。



上記の図のように、VMware vSphere を運用しているサーバに仮想アプライアンスをイン ポートすることで、1つの仮想マシンとして利用できるようになります。

項目	説明
vSphere Client をインストールして	vSphere Client を使用して VMware vSphere を
いる PC	設定、管理します。WindowsPC にインストールし
	て使用します。次のような機能があります。
	・ 仮想マシンを操作するコンソール機能
	・ VMware vSphere の管理ツールとしての機能
VMware vSphere を運用している	VMware vSphere を運用しているサーバは、
サーバ	VMware 社から認証を取得している機種、デバイ
	スである必要があります。例えば、CPUが2個搭
	載されているなどの条件があります。詳細は、
	VMware vSphere のマニュアル等を参照してく
	ださい。

1.1.2. 動作環境

AddPoint が利用可能な VMware vSphere は以下のとおりです。

製品名	バージョン
VMware vSphere	4
ESX/ESXi	4.1

AddPoint の仮想マシンは、以下の諸元に設定しています。

リソース名	必要量
CPU	2 個
メモリ	2GB
LAN インタフェース(仮想 NIC 1)	LAN1(物理 NIC 0)
ディスク容量	256GB

初期状態では、LAN1の設定は以下のとおりです。

項目	設定値
LAN インタフェース	eth0
IP アドレス	192.168.250.250
ネットワークマスク	255.255.255.0
ホスト名	localhost.domain



インポートする際に、VMware vSphere に上記のメモリやディスク容量など が確保できない場合、AddPoint 製品のインポートが異常終了したり、本来 の性能を利用することができない場合があります。

2. 導入

この章ではお客様が運用を開始するまでに必要な作業をまとめてありますので、 クイックスタートとしてご利用いただけます。

2.1. ライセンス申請

2.1.1. GUARDIANWALLのライセンス申請

AddPointの導入にあたり、セットアップ作業前に GUARDIANWALL のライセンスキーを取得 します。ライセンスキーの取得は、インストール DVD に格納されている 『AddPoint/MailWallServer ライセンス申請シート』(AddPointMWS_license.xls)を記入し、 窓口へライセンスキーの発行を依頼してください。

2.2. 導入準備

2.2.1. vSphere Serverへのログイン

VMware vSphere Server に AddPoint の仮想アプライアンスをインポートするために vSphere Client を利用して VMware vSphere Server にログインします。 vSphere Client をイ ンストールしている PC を用意してください。

「スタート」ー「すべてのプログラム」ー「VMware」ー「VMware vSphere Client」を選択し、vSphere Client を起動します。vSphere Client のログイン画面が表示されます。

🚱 VMware vSphere Client 🛛 🔀
VMware vSphere ^{**} Client
単一のホストを直接管理する(こは、IP アドレスまたはホスト名を入力します。 複数のホストを管理する(こは、vCenter Serverの IP アドレスまたは名前を入力 します。 IP アドレス/名前(い):
□ Windows セッションの認証情報を使用する (W) □グイン (Q) 閉じる (C) へルブ (H)

② VMware vSphere Server の管理者権限のアカウントでログインします。

③ ログインに成功すると、以下のような管理画面が表示されます。



2.2.2. 仮想アプライアンスのインポート

仮想アプライアンスとは、事前にオペレーティングシステムとアプリケーションがインストールされた仮想マシンです。AddPoint は製品添付のインストール DVD に格納しています。

① vSphere Client 管理画面で「ファイル」-「OVF テンプレートのデプロイ」を選択しま す。

2.	vcenter \sim vSpl	here Client						
77	イル (E) 編集 (E)	表示(図) イン/	いり(N)管理(A)	プラグイン(<u>P)</u> ヘル:	†(Ш			
	新規 (<u>N</u>)					6 7 -	インベントリの検索	Q
	OVF テンプレート	のデブロイ (<u>D</u>)						
	レポート (B) VA Marketplace	の参照 (<u>B</u>)	· •					
	マップの印刷(P)		・ 想マシンおよびテ ンプレート	データストア	ネットワーク			
管	〒100/ 理							
	6	>_	2		₽	V2	2	
	0-ル	セッション	ライセンス	システム ログ	vCenter Server 設 定	vCenter Service Status	Licensing Reporting Manager	
74	ネージメント ツール							
	* ©		8	-	-			
사	ケジュール設定タ スク	イベント	マップ	ホスト プロファイル	カスタマイズ仕様マ ネージャ (<u>U</u>)			

② 「OVF テンプレートのデプロイ」画面の「ソース」ページが表示されます。

🙆 OVF テンプレートのデプロー	í	
ソース ソースの場所を選択してくだ	čιν	
 ソース OVF テンフレートの詳細 名前と場所 オストクラスタ リソースブール ディスクのフォーマット 続了準備の完了 	ファイルまたは URL からのテプロイ マ 参照 URL 私入力してインターネットから OVF パッケージをヴンロードしてインストールする か. おだは使用しているコンピーマからやアクセス可能な時所(ローカル・ハードドライ ブ、ネットワーク共有、CD/DVD ドライブなど)を指定します。	
ヘルプ(出)	戻る(<) 次へ(2)	キャンセル

 AddPoint に添付されているインストール DVD を vSphere Client が参照可能なドライ ブにセットし、「参照」をクリックします。

表示されたファイル選択画面でインストール DVD に格納されている仮想アプライアンス イメージファイルを選択し、「開く」をクリックします。「ソース」ページに戻ったら「ファイル または URL からデプロイ」に入力されている内容を確認し「次へ」をクリックします。

🖉 OVF テンプレートのデプロー	
ソース ソースの場所を選択してくだ	čιν
 ソース ○VF テンプレートの詳細 名前ど場所 名前ど場所 国 ホスト/ウラスタ リジースブール ディスクのフォーマット 続?「準備の売? 	ファイルまたは URL からのデブロイ E:¥AddPoint_MalWallServer_V7.2_for_VMware¥AddPoint_Mall 』 ● 既 URL を入力してインターネット形ち OVP バックーンをなりプロートしてインストールする か.まだは使用しているコンピューッからアクレフス自体が開新(ローカル・ハードドライ ブ、ネットワーク共有、CD/DVD ドライブなど)を指定します。
ヘルブ(出)	戻る(<) 次へ(2) キャンセル

④「OVF テンプレートの詳細」ページが表示されます。「次へ」をクリックします。

🖉 OVF テンプレートのデプロイ		
DVF テンプレートの詳細 OVF テンプレートの詳細を確	認します。	
ソース の好 デンプレートの詳細 名前と場所 田 木スト/クラスタ リソースプール ディスクのフォーマット 除了準備の完了	製品: パージョン: ペンダー: 発行者: ダウンロードサイ?	AddPoint_MailWallServer_V7.2_for_VMware 証明書が存在しません だ: 704.3 MB
	ディスク上のサイ <i>ス</i> 炎8月:	(: 1.7 GB (シンプロピジョニング) 256.0 GB (シックプロビジョニング)
ヘルプ (出)		

⑤「名前と場所」ページが表示されます。仮想マシンの名前と AddPoint を登録するデー タセンターを指定し、「次へ」をクリックします。

🖉 OVF テンプレートのデブ	IT	
名前と場所 デプロイされたテンプレー	の名前と場所を指定します	
 ソニス の好 テンプレートの詳細 名前と場所 オスト/ゆうスタ リソースブール ディスクのフォーマット 終了準備の完了 	名前: AddPoint_MaiWaldServer_V7.2_for_MMware - Andréad-Kooo Line Societo Jin En 19 - Or 000 July 内で一意でなければなりません。 インペンドリの場所: □ ② venter □ ■ 新規データセンター	
(H)		キャンセル

⑥「ホスト/クラスタ」ページが表示されます。AddPoint をどのホストで実行するか選択してください。選択後、「次へ」をクリックします。

💋 OVF テンプレートのデプロ・	ſ		
ホスト/クラスタ デブロイしたテンプレートをど	のホストまたはクラスタで実行しますか?		
ソース OVF テンプレートの詳細 名前と残所 日 ネスド/クラスタ 特定のホスト リンースプール ディスクのフォーマット 終了 準備の完了	● 新規データセンター Ⅱ 172.16.0.1 Ⅱ 172.16.0.2		
ヘルプ (円)		戻る(≤)	次へ(2) キャンセル

⑦「データストア」ページが表示されます。仮想マシンのファイルを保存するデータストアを 選択しクリックします。

🛃 OVF テンプレートのデブロー	ſ			
データストア 仮想マシンのファイルをどこ(。	こ保存しますか?			
N-7	仮想マシンファイルを	呆存するデータストアを選択します	:	
<u></u> <u>OVF テンプレートの詳細</u>	1 0 24		212-45-05 B b /→	
名前と場所	PGRU ENEST	谷重 /UCン3 429.32.GB 301.18.GB	王さ谷軍 %1 / 412 32 GB NES	ソフ フロビンヨニ… アクセス #ポート対象 - 雄雄の
<u>ホストソウラスタ</u> データストア	[datastore1]	552.75 GB 302.55 GB	490.50 GB VMF5	サポート対象 単一木
ディスクのフォーマット	<u> </u>			
終了準備の完了				
	<			
<u> </u>			C	
(H)			戻る(⊴)	次へ (2) キャンセル

⑧「ディスクのフォーマット」ページが表示されます。AddPoint は手順④「OVF テンプレートの詳細」で表示されたように、ディスク上のサイズは 256GB になります。「シック プロビジョニングフォーマット」を選択し「次へ」をクリックします。

💋 OVF テンプレートのデブロー	ſ	
ディスクのフォーマット 仮想ディスクはどのフォーマッ	ットで保存しますか?	
<u>ソース</u> OVE ランフレートの詳細 名前と場所 水ムト/シラスタ データストア ディスタのフォーマット 除了準備の完了	 違訳されたテータストアの情報: 名前: datastore1 容量: 552.8 GB 空音報載: 490.5 GB Select a format in which to store the virtual machines virtual disks: ヘ シンプロビジュニングフォーマット ストレージは、デーが所成現在リスパス連邦込まれるとき(ゴンデマンドで変わ)当てられます。 オーンストアで(ジョング・アイス)を作成します。 推定されるディスク使用率:1.7 GB シックプロビジュニングフォーマット すべてのストレージがオテーマット 推定されるディスク使用率:256.0 GB)
(H)		キャンセル

⑨「終了準備の完了」ページが表示されます。「終了」をクリックします。

😰 OVF テンプレートのデブロ・	
終了準備の完了 使用する設定の確認	
<u>ソニス</u> <u>ovf デンブレートの詳細</u> 名前と場所 <u>ホスト/クラスタ</u> ディスクのフォーマット 終7単偽の完7	「終了」をグリックすると、デプロイタスクが開始されます。 デプロイ設定 OWF ファイル・ビーム EVAddPoint MailWallServer_V7.2_for_VMware#AddPoint_MailWallServer_V7.2_f ダウンロードサイ: 704.3 MB ディスク上のサイズ: 1.708 奈莉: AddPoint_MailWallServer_V7.2_for_VMware スカレヴィズ: カインドランス: 1.708 新規データセンター カストグラスタ: 1.716.0 2 ディスクのフォーマット: System ディスクのフォーマット: シック プロビジョニング ネットワークのマッピング: FVM NetworkJ
(H)	戻る(ら) 「終了」 キャンセル

⑩ デプロイが開始されます。

🚱 AddPoint_MailWallServer_V7.2_for_VMwar 🔳 🗖 🔀	
AddPoint_MailWallServer_V7.2_for_VMware をデプロイしています	
仮想マシン AddPoint_MailWallServer_V7.2_for_VMware を作成しています…	
キャンセル	

以下のように表示されたらデプロイは完了です。



 インポートした仮想アプライアンス(仮想マシン)をパワーオンし、vSphere Clientの「コン ソール」タブを表示して AddPoint の起動を確認します。

コンソールからカーソルを開放するには、<Ctrl>+<Alt>キーを同時に押下します。



上記のようにログインプロンプトが表示されたら、AddPoint は正常に起動しています。

2.2.3. メモリの追加

AddPoint で使用するメモリを増やすには、以下の手順でメモリを追加します。



- vSphere Client 管理画面で「インベントリ」パネルから「ホストおよびクラスタ」を選択する
 と、VMware vSphere Server 上の仮想マシン一覧が表示されます。
- ② 表示された仮想マシン一覧の中から、メモリを増やす AddPoint を選択します。
- ③「インベントリ」ー「仮想マシン」ー「設定の編集」をクリックします。



④ 表示された「仮想マシンのプロパティ」画面から「ハードウェア」タブをクリックします。

「 すべてのデバイスを表示	追加 肖耶余	- メモリ構成 255GBロメ・	EU サイズ: 2 - GB マ
 ハードウェア メリ マレ マレ ビデオカード WGT デバイス SCSI コントローラ 0 ハードディスク 1 CD/NON ドライブ 1 ネットワーク アダブタ 1 ネットワーク アダブタ 2 フロッピードライブ 1 	サマリ 2048 MB 2 ビデオ カード 制限 LSI Logic パラレル 仮想ディスク [] /wmfs/volumes/3c36 VM Network Floppy 1	12868 - 6468 - 3268 - 4688 - 4688 - 1688 - 1688 - 168 - 168 - 168 - 128 MB - 128 MB - 128 MB - 16 MB - 16 MB - 16 MB - 16 MB - 4 MB -	このゲスト os に推奨される 最大値 (2):64 GB ベスト / パォーマンスのために推奨される 最大値 (2):2044 HM このゲスト os に推奨される 最小値 (19):256 MB

⑤「メモリ」を選択し、右画面の「メモリサイズ」を変更します。

🚱 AddPoint_MailWallServer_V7.2_for_VMware - 仮想マジ	シンのプロパティ 📃 🗖 🛃
ハードウェア オブション リソース	仮想マシンのバージョン:7
すべてのデバイスを表示 道加 削除	メモリ構成 255GB□ メモリサイズ: 4 ÷ GB ▼
ドロードサムア リーサー リーサー リーサー リーサー リーサー 「「「「」」」。 編 メモリ (編集済み) 4096 MB	128GB - このゲスト OS (ご推奨される ◀ 最大値 (X):64 GB
CPU C CPU C Cデオカード ビデオカード WRCI デバイス 制限	64GB→4 ベストパフォーマンスのために推奨される 32GB→ 4 最大値(R):2044 MB このゲスト 05(ご推奨される
	16GB - 最小值(<u>M</u>)=256 MB 8GB -
■ ネットワーク アダプタ 1 VM Network ■ ネットワーク アダプタ 2 VM Network 日 フリーク アダプタ 2 VM Network	4GB -
	1GB -
	512 MB - 256 MB - 4
	128 MB -
	64 MB -
	32 MB
	8 MB -
<u> </u>	4 MB 🖵
へルブ(出)	OK ++>+211

⑥ 「**OK**」をクリックします。

2.2.4. ディスクの追加

AddPoint は、GUARDIANWALL でバックアップされた保存メールを閲覧する場合、バック アップファイルをリストアするためのログリストア領域を必要とします。仮想アプライアンスの初 期状態はシステムファイルをインストールした仮想ディスクのみであるため、保存メールをバッ クアップする運用をされる場合は、ログリストア領域用の仮想ディスクを追加する必要がありま す。

ログリストア領域の容量は、以下を目安に計算してください。

「1日のメール流量(通数)」×「平均メールサイズ」×1.5×「リストア対象期間(日数)」



仮想ディスクを追加するには、作業前に仮想マシンを停止しておく必要が あります。

以下の手順で仮想ディスクを追加します。

- vSphere Client 管理画面で「インベントリ」パネルから「ホストおよびクラスタ」を選択する と、VMware vSphere Server 上の仮想マシン一覧が表示されます。
- ② 表示された仮想マシン一覧の中から、ディスクを追加する AddPoint を選択します。

③「インベントリ」ー「仮想マシン」ー「設定の編集」をクリックします。



④ 表示された「仮想マシンのプロパティ」画面から「ハードウェア」タブをクリックし、「追加」
 をクリックします。

AddPoint_MailWallServer_	V7.2_for_VMware - 仮想マシン	ッのプロパティ		
ハードウェア オウション リソース			仮想マシンの)バージョン:7
バードウェア 2 ション リソース 「オードウェア 2 ション リソース 「オードウェア マレ 「 オードウェア ビデオ カード ビデオ カード WRG デバイス SCSI コントローラ 0 バードディスク 1 CODVD ドライブ 1 マットワーク アダブタ 1 マットワーク アダブタ 2 J回ッピードライブ 1	<u> 注意加</u> 前原産 サマリ 2048 MB 2 ビデオカード 制限 LSI Logic /ミレル 仮題ディスク [] //mf3/volumes/3c36 VM Network VM Network Floppy 1	大田構成 255GB 人王 128GB 4 64GB 4 32GB 4 16GB 4 4GB - 2GB 4 1GB -	仮想マンの 1サイズ: 2 1 2 このゲスト 05 (非現実れる 最大値 (2): 46 46 ベスト (10 - マンスのために非約 最大値 (2): 2044 M6 このゲスト 05 (は現実される 最小値 (11): 256 M8	N(-ジョン:7 GB ▼ 奥される
		512 MB - 256 MB - 128 MB - 64 MB - 32 MB - 16 MB - 8 MB - 4 MB		
<u> へルプ(田</u>			ОК *	*2711

⑤ 「ハードウェアの追加」画面の「デバイスタイプ」ページが表示されます。デバイス選択リ ストから「ハードディスク」を選択し、「次へ」をクリックします。

🖉 ハードウェアの追加			×
デバイスタイナ どのデバイスを仮想マシン	(ご追加しますか?		
デバスタイプ ディス200選択 ディス200代成 詳細プジョン 終了準備の完了	3 追加するデバイスタイプを選択しま ● シリアル ポート ● パラルル ポート ■ フロッピードライブ ● CODPON ドライブ ● USB フントローラ ■ USB ブントローラ ■ USB ブントローラ ■ USB ブントローラ ■ COLPON ドライブ ● COLPON FO ● COL	はす。	
~117 (H)		戻る(公) 次へ(2) キャンセ	n

⑥「ディスクの選択」ページで「新規仮想ディスクを作成」を選択し、「次へ」をクリックします。

🕗 ハードウェアの追加		X
ディスクの選択		
<u>デバイスタイプ</u> ディス200 変駅 ディス200作成 詳細サプション 終了準備の売了	 仮想ディスクはホストファイルシステムの1つまたは視動のファイルから構成されます。これ 6のファイルはとちに、ゲストosに対して単一のハードディスクとして表示されます。 使用するディスクのタイプを選択します。 ディスク 新規仮想ディスクを作成 「既存の仮想ディスクを使用 以前に構成した仮想ディスクを使用 以前に構成した仮想ディスクを再使用します。 C Raw デバイスのマクとング 仮想マシンに SAN への直接アクセス権を与えます。このオプションを使用してこのス トレージにアクセスし続けることができます。 	
(H)	戻る(S) (次へ(S) キャン	セル

⑦「ディスクの作成」ページで確保する容量を「ディスクサイズ」に指定し、「次へ」をクリックします。

パードウェアの追加 ティスクの作成 仮想ディスクサイズとプ	■ビジョニング ポリシーを指定します
<u>デバイスタイプ</u> ディスクの選択 ディスクの作成 詳細サブション 終了準備の完了	安健 ディスクサイズ: 100 ∃ GB ■ ディスク プロビジョニング 「 新城 なう テ マンドで書が1当てちよび32.5+ (シンプロビジョニング) 実験の書が1当てポリシーは Mr5 サーバによって決定されます。 マ フォールトドレランスなどのウラスがリング指性素セサポート NFS データストアでは、YAEとクラスがリングがサポートされています。 場所 ・ 仮想マシンで保存 (⊻) ・ データストアの指定 (2): 参照 (1)
へルプ田	_ 戻る(く) 次へ(と) キャンセル

⑧「詳細オプション」ページで既定値のまま「次へ」をクリックします。

🕑 ハードウェアの追加		×
詳細オブション これらの詳細オプションは、i	曹芊変更する必要がありません。	
<u>デバイスタイプ</u> ディスクの運転 ディスクの作成 詳細オプション 終了準備の完了	この仮想ディスクの詳細オジョンを指定します。これらのオジョンは過常変更する必要が ありません。 「仮想デドイスノード 「「「」」」 「「」」 「」」 で 「」」 で 」」 で 「」」 で 」」 で 「」」 で 」」 で 「」」 つ 「」」 で 「」」 つ 「」 で 「」」 つ 「」」 で 「」」 、 う の 、 、 の で 「」」 の っ の の の の の の 「」」 の っ の っ り っ っ っ い っ の っ っ の っ っ っ の い う っ っ っ っ い お っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ	ÿ
(H)	戻る(s) 次へ(s) キャン	tu

⑨「終了準備の完了」ページで設定内容の確認後、「終了」をクリックします。

🖗 ハードウェアの追加		
終了準備の完了 選択したオブションを確認し	、「終了」をクリックしてハードウェアを追加します。	
<u>デバイスタイプ</u> ディスクの選択 ディスクの作成 詳細プ <i>ブッコン</i> 終了準備の完了	オプション: ハードウェア タイフ: ハード ディスカ ディスカの作成: 新規度想ディスカ ディスカの容量: 100 Go デース入う: N=5 仮想デバイス ノード: SCSI (0:1) ディスクモード: 通常	
	戻る(s) 〔 <u>終了(f)</u> 〕	キャンセル



初期状態で仮想ディスクを追加した場合、システム上では追加順に 「/dev/sdb」「/dev/sdc」として認識されます。

2.2.5. 複数のネットワークインタフェースの使用

AddPoint で複数のネットワークインタフェースを使用する場合は、以下の手順でネットワーク アダプタ2を有効にします。



ネットワークアダプタ 2 を有効にするには、作業前に仮想マシンを停止して おく必要があります。

- vSphere Client 管理画面で「インベントリ」パネルから「ホストおよびクラスタ」を選択する と、VMware vSphere Server 上の仮想マシン一覧が表示されます。
- 表示された仮想マシン一覧の中から、ネットワークアダプタ 2 を有効にする AddPoint を選択します。
- ③「インベントリ」ー「仮想マシン」ー「設定の編集」をクリックします。



④ 表示された「仮想マシンのプロパティ」画面から「ハードウェア」タブをクリックします。

AddPoint_MailWallServer_V7	.2_for_VMware - 仮想マシンのブロパ	K74	
ハードウェア フション リソース		仮想マシンのバ・	−ジョン:7
□ すべてのデバイスを表示		成 メモリサイズ: 2 主 GB	•
ハードウェア マレ マレ マレ ビデオカード ビデオカード マMCI デバイス SCSI コントローラ 0 ハードデイズ 1 CD/DVD ドライブ 1 ネットワーク アダブタ 1 ネットワーク アダブタ 2 フロッピー ドライブ 1	1997年 199	 メモリサイズ: 2当 GB このゲスト OS に推奨される 最大値 (2):64 GB ペスト バラ・マンスのために推奨さ 最大値 (2):2044 MB レベアストのために推奨される 最大値 (10):256 MB 	*113
	8 MB - 4 MB -		
(H)(H)(H)(H)(H)(H)		OK	/t/l

⑤「ネットワークアダプタ2」を選択し、右画面の「パワーオン時に接続」をチェックします。

🛃 AddPoint_MailWallServer_V7	.2_for_VMware - 仮想マ	シンのプロパティ	
ハードウェア オプション リソース			仮想マシンのバージョン:7
□ すべてのデバイスを表示 _	追加 削除	ーデバイスのステータス ―	
ハードウェア	サマリ	▶ パワーオン時に接続	
■ メモリ ■ CPU ■ ビデオカード	2048 MB 2 ビデオ カード		フレキシブル
 □ VMCI デバイス ③ SCSI コントローラ 0 □ ハードディスク 1 ○ CD/DED ドラ (ゴ) 	制限 LSI Logic パラレル 仮想ディスク	MAC アドレス 00:0c:29:31:9f:f4	
	[] /vmrs/volumes/acab	● 自動	手動
マットワーク アダプタ2 (編集… ローフロッピー ドライブ 1	VM Network	ーネットワーク接続 ネットワークラベル:	
		VM Network	•
(H)			ОК * *>セル

⑥ 「**OK**」をクリックします。

2.3. AddPointのセットアップ

2.3.1. セットアップの流れ

AddPoint のセットアップの手順は以下のとおりです。運用するネットワーク環境に合わせて セットアップを実施してください。



2.3.2. システム設定画面への接続

クライアント PC の Microsoft Internet Explorer を介して AddPoint に接続し、セットアップを 行います。使用できる管理用クライアント PC の要件は以下のとおりです。

項目	要件
OS	WindowsXP SP3、Windows Vista SP1/SP2、Windows 7
ウェブブラウザ	Internet Explorer 6, 7, 8
その他条件	ウェブブラウザの JavaScript が有効であること

- ① AddPoint に接続するクライアントPCのIPアドレスを AddPoint と通信ができるIPアドレスに変更します。
- ② クライアント PC でブラウザを起動し、以下を参照します。

http://192.168.250.250:1446/amsc/

接続できない場合はクライアントPCからpingコマンドなどで通信状態を確認してください。

C:¥> ping 192.168.250.250



AddPoint と通信ができない場合は、設定されているネットワークと接続できるようクライアント PC のネットワーク設定を確認してください。

③ 以下の情報を入力し、システム管理画面にログインします。

項目	入力値
ユーザ名	root
パスワード	addpoint

2.3.3. システム設定開始

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。「開始」をクリックし、初期設定を開始しま す。作業を中止する場合は「中止」をクリックします。

■ 初期設定	
	システムの初期設定をおこないます。
	[開始」ボタンをクリックすると、初期設定を開始します。 [中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止しシステムをシャットダウンします。
	中止開始

2.3.4. システム管理者設定

システム管理者のパスワードを設定します。システム管理者名は"root"(固定)で、AddPoint Manager へのアクセス、および AddPoint でのコンソール作業時のアカウントです。 システム管理者に設定するパスワードを「パスワード」「パスワード(再入力)」に入力して「次へ」 をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
パスワード (*)	パスワードは半角英字(大文字、小文字の区別あり)、半角
	数字、半角記号を使用した3文字以上128文字以下で設
	定します。
パスワード(再入力) (*)	「パスワード」と同じパスワードを入力します。

■システム管理者バスワード設定		
システム管理者のパスワードを設定します。		
システム管理者は、システムおよびAddPoint Mar システム管理者のバスワードを入力してください。 **の付いている項目は、必須入力です。	nagerへのログインアカウントとなります。	
システム管理者名:	root	
*パスワード: *パスワード(再入力):		
[中止]		前へ次へ

2.3.5. ネットワーク設定

お客様の運用環境に合わせたネットワーク情報を設定します。 「ホスト名(FQDN)」にはドメイン名を含めたホスト名を入力してください。

以下の項目について必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
ホスト名(FQDN) (*)	AddPoint のホスト名です。「ホスト名」+「ドメイン名」の
	FQDN で指定します。
	FQDN は"addpoint.example.com"などとなります。
IP アドレス(eth0) (*)	AddPoint の IP アドレス(10 進数表記)を設定します。
サブネットマスク(eth0) (*)	IP アドレス(eth0)のサブネットマスク(10 進数表記)を設定
	します。
ネットワークアドレス	IP アドレス(eth0)のネットワークアドレス(10 進数表記)を設
(eth0) (*)	定します。
ブロードキャストアドレス	IP アドレス(eth0)のブロードキャストアドレス(10 進数表記)
(eth0) (*)	を設定します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス(10 進数表記)を設定
(*)	します。

AddPoint で複数のネットワークインタフェースを使用する場合に指定します。

項目	設定内容
IP アドレス(eth1)	2 つ目のネットワークインタフェースの IP アドレス(10 進数
	表記)を設定します。
サブネットマスク(eth1)	IP アドレス(eth1)のサブネットマスク(10 進数表記)を設定
	します。
ネットワークアドレス	IP アドレス(eth1)のネットワークアドレス(10 進数表記)を設
(eth1)	定します。
ブロードキャストアドレス	IP アドレス(eth1)のブロードキャストアドレス(10 進数表記)
(eth1)	を設定します。

DNSを使用する場合に DNS サーバの IP アドレスを指定します。複数の DNS サーバを使用 する場合は3件まで指定できます。DNS サーバは1番目から順に指定してください。

項目	設定内容
ネームサーバ(1番目)	1番目のネームサーバの IP アドレス(10進数表記)を設定
	します。
ネームサーバ(2番目)	2番目のネームサーバの IP アドレス(10進数表記)を設定
	します。
ネームサーバ(3番目)	3番目のネームサーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定
	します。

ネットワーク上に存在する時刻サーバを使用したサーバの時刻同期をする場合に時刻サーバの IP アドレスを指定します。メールのヘッダ情報やシステムログなどに記録されるため、時刻サーバの使用を推奨しています。

項目	設定内容
時刻サーバ	時刻サーバの IP アドレス(10 進数表記)を設定します。

■ネットワーク設定	
システムのネットワーク基本情報を設定します。	
IAN1(ethのネットワーク IAN2(eth)ネットワーク 名前	解決のNSVサーバ 時刻サーバの設定剤 ます.
*の付いている項目は、必須入力です。	ATTACOUNTY A COMPANY A COMPANY
*ホスト名(FQDN):	
*IPアドレス(eth0):	
*サブネットマスク(eth0):	
*ネットワークアドレス(eth0):	
*ブロードキャストアドレス(eth0):	
*デフォルトゲートウェイ:	
IPアドレス(eth1):	
サブネットマスク(eth1):	
ネットワークアドレス(eth1):	
ブロードキャストアドレス(eth1):	
ネームサーバ(1番目):	
ネームサーバ(2番目):	
ネームサーバ(3番目):	
時刻サーバ:	
甲止	前へ次へ

2.3.6. hostsファイル設定

DNS に登録されていないホストに対して、ホスト名による参照をしたい場合に指定します。 AddPoint 自身の情報を指定する必要はありません。本項目は 10 件まで指定できます。 必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。

項目	設定内容
IP アドレス	hosts ファイルによる名前解決をするホストの IP アドレス
	(10 進数表記)を指定します。
ホスト名(FQDN)	IP アドレスに対応するホスト名です。「ホスト名」+「ドメイン
	名」の FQDN で指定します。
別名	「ホスト名(FQDN)」以外で参照する場合に指定します。

ostsファイル(別名)設定					
hostsファイル(別名)の設定を	hostsファイル(別名)の設定をします。				
IPアドレス	ホスト名(FQDN)	別名			
設定1:					
設定2:					
設定3:					
設定4:					
設定5:					
設定6:					
設定7:					
設定8:					
設定9:					
設定10:					
<u>لا</u>		前へ [2]			

2.3.7. アクセス制御設定

AddPoint に対するアクセスを制限する場合に指定します。本設定により意図しないホストから AddPoint Manager へのアクセスや電子メールの中継などを防ぐことができます。

アクセス制御をしない場合は指定する必要はありませんが、すべてのホスト、端末からもアク セスが可能となります。

必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
アクセス制御の有無 (*)	アクセス制御をする場合は、「アクセス制御をする」を指定 します。アクセス制御をしない場合は、「アクセス制御をし ない」を指定します。

アクセス制御をする場合は、指定した IP アドレス以外からのアクセスは Linux の iptables により接続が拒否される設定となります。

AddPoint Manager にアクセスする端末や AddPoint ヘメールを転送するサーバなど、 AddPoint に接続するサーバを指定します。AddPointの次段のメールサーバなど、AddPoint から接続をするサーバは指定する必要はありません。

指定は必ず IP アドレスとサービスを 1 組として、それぞれ 1 組以上を指定します。本項目は 10 件まで指定できます。

項目	設定内容
IP アドレス(マスク)	アクセスを許可する IP アドレス(10 進数表記)を指定しま
	す。
プロトコル	アクセスを許可するサービスを以下の3項目から指定しま
	す。
	• 電子メール(SMTP)
	• Web アクセス(HTTP/SSL)
	• その他
ポート番号	「プロトコル」で「その他」を指定した場合に許可する「ポー
	ト番号」を指定します。
プロトコル制限	「プロトコル」で「その他」を指定した場合に許可するプロト
	コルを以下から指定します。
	 制限なし
	• TCP のみ
	• UDP のみ

■ アクセス制御設定 アクセス制御の設定を **の付いている項目は *アクセス制御の	」ます。 、必須入力です。)有無: ○ アクセス制御をしない ○ アクセス制御をする			
	IPアドレス(/マスク)	プロトコル	ポート番号	ブロトコル制限
設定1:		(選択)	·	(選択) 🔽
設定2:		(選択)	*	(選択) 🔽
設定3:		(選択)	·	(選択) 🔽
設定 <mark>4</mark> :		(選択)	*	(選択) 🔽
設定5:		(選択)	·	(選択) 🔽
設定6:		(選択)	*	(選択) 🔽
設定7:		(選択)	·	(選択) 🔽
設定8:		(選択)	*	(選択) 🔽
設定9:		(選択)	·	(選択) 🔽
設定10:		(選択)	·	(選択) 🔽
中止				前へ次へ

2.3.8. メール転送設定

AddPointから配送されるメールの送信先を指定します。メールの転送先は、以下の順序で適用されます。

- 1. あて先メールアドレスのドメイン名が「サーバ・ドメイン別転送設定」の「ドメイン名/ホスト 名」にマッチする場合は、そのエントリの「転送先ホスト名」に転送します。
- 2. あて先メールアドレスのドメイン名が受信メールドメインに含まれる場合は、「受信メール 設定」の「ホスト名」に指定したホストに転送します。
- 3. 上記のいずれにも当てはまらない場合は、「発信メール設定」の「ホスト名」に指定したホ ストに転送します。

必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。(*)がついている項目は必須入力です。

項目	設定内容
受信メール設定 (*)	内部あてのメールの転送先サーバホストの IP アドレス(10
	進数表記)、またはホスト名(FQDN)を指定します。
	AddPoint を内部から外部あてメールのみに適用するな
	ど、内部あてのメールが AddPoint を通過しない場合は
	「指定しない」を指定します。
受信メールドメイン設定	内部のメールアドレスに使用しているドメイン名を指定しま
(*)	す。本項目は10件まで指定できます。
発信メール設定 (*)	内部から外部あてのメールの転送先ホストを指定します。
	外部あてのメールを MX 配送する場合は、「AddPoint が
	直接発信」を指定します。
	「発信メール設定」の「ホスト名」は、IP アドレス(10 進数表
	記)またはホスト名(FQDN)を指定します。
サーバ・ドメイン別転送設	特定のドメインまたはホストあてのメールを「受信メール設
定	定」「発信メール設定」の「ホスト名」に指定したホスト以外
	のメールサーバに転送する場合に指定します。
	「種別」は"host"、"domain"のいずれかを指定します。
	host: "xxx@<ホスト名>"にマッチします
	domain: "xxx@<サブドメイン名>.<ドメイン名>"にマッ
	チします
	転送先ホスト名は、IP アドレス(10 進数表記)またはホスト
	名(FQDN)を指定します。本項目は 10 件まで指定できま
	す。

■メール転送設定			
受信メール設定、発信メール **の付いている項目は、必須	レ設定、サーバ・ドメイン別転送設定: 須入力です。	乞します。	
*受信メール設定: ○ ○	指定しない 受信メール転送先ホストを指定	차スŀ名:	
*受信メールドメイン言	投定:		
ドメイン	21:	ドメイン2:	
ドメイン	/3:	ドメイン4:	
ドメイン	/5:	ドメイン6:	
ドメイン	7:	ドメイン8:	
ドメイン	9:	ドメイン10:	
		小人にも・	
サーバ・ドメイン別転送設定	:		
サーバ・ドメイン別陳武送設定	・ ホスト名ドメイン名	(1381p) 転送先ホスト名	
サーバ・ドメイン別博玩送設定 転送設定 東示送設5	:: ホスト名ドメイン名 定1: 	種別 「選択)	
サーバ・ドメイン別博芸送設定 転送語数 転送語数 電話設す	:: ホスト名ドメイン名 定1: 定2: 定3:		
サーバ・ドメイン別博芸送設定 転送設5 転送設5 転送設5 転送設5 転送設5	:: ホスト名ドメイン名 定1: 定2: 定3: 定4:	種別	
サーバ・ドメイン別挿云送設定 転送話設 転送話設 転送話設 転送話設 転送話設	 ホスト名ドメイン名 定2: 定3: 定4: 定5: 		
サーバ・ドメイン別博玩送設定 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送話設 転送話設	: ホスト名ドメイン名 定1: 定2: 定3: 定4: 定5: 定6:	種別 転送先ホスト名 (選択) ▼ (選択) ▼ (選択) ▼ (選択) ▼ (選択) ▼ (選択) ▼ (選択) ▼	
サーバ・ドメイン別博芸送設定 転送詰む 転送詰む 転送詰む 転送詰む 転送詰む 転送詰む 転送詰む 転送詰む	・ ホスト名ドメイン名 定 : ホスト名ドメイン名 定 : こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	種別 「選択) ♥ (選択) ♥ (選択) ♥ (選択) ♥ (選択) ♥ (選択) ♥ (選択) ♥ (選択) ♥ (選択) ♥	
サーバ・ドメイン別博芸送設定 転送話設 転送話設 転送話設 転送話設 転送話設 転送話設 転送話設 転送話設	x18メ ルキュンシンバンド と目と ホスト名・ドメイン名 定1: 定2: 定3: 定4: 定5: 定6: 定7: 定8:	種別 転送先ホスト名 (選択) ・ (選択) ・ ((選択) ・ ((選択) ・ (((選択) ・ (((((((((((((
サーバ・ドメイン別転送設定 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設	・ ホスト名ドメイン名 定1: 定2: 定3: 定4: 定5: 定6: 定7: 定8: 定9:		
サーバ・ドメイン別転送設定 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設 転送設	・ ホスト名・ドメイン名 定 1: ホスト名・ドメイン名 定 1: 定 2: こ 定 3: こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	種別 軽送先ホスト名 (選択) マ (選択) マ	
サ ーバ・ドメイン別博芸送設定 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送詰設 転送 転送 し 転送 し し し し し し し し し し し し し	・ ホスト名・ドメイン名 定 : ホスト名・ドメイン名 定 : こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	種別 転送先ホスト名 (選択) ・ (選択) ・ ((選択) ・ (((選択) ・) (((((((((

2.3.9. GUARDIANWALL設定

GUARDIANWALL に関する設定を指定します。(*)がついている項目は必須入力です。 必要な情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。

項目	設定内容
情報管理者	GUARDIANWALL 管理画面へのアクセスで使用するアカ
	ウントです。アカウントは変更できません。
情報管理者パスワード	GUARDIANWALL の管理画面に「情報管理者(admin)」
(*)	でアクセスする際のパスワードです。
	パスワードは半角英字(大文字、小文字の区別あり)、半角
	数字を使用した 4 文字以上 255 文字以下で指定します
	(半角記号は使用できません)。
情報管理者パスワード	パスワード入力の確認のため、もう一度「情報管理者パス
(再入力) (*)	ワード」と同じパスワードを指定します。
管理サーバライセンス	「2.1.1 GUARDIANWALL のライセンス申請」で取得した
	管理サーバライセンスキーを指定します。
検査サーバライセンス	「2.1.1 GUARDIANWALL のライセンス申請」で取得した
	検査サーバライセンスキーを指定します。
全文検索ライセンス	「2.1.1 GUARDIANWALL のライセンス申請」で取得した
	全文検索ライセンスキーを指定します。
ログリストア領域設定 (*)	「ログリストア領域」は、GUARDIANWALL でバックアップ
	された保存メールを閲覧する際に必要となる領域です。使
	用する場合は「ログリストア領域を設定する」を指定し、
	「2.2.4 ディスクの追加」で作成した仮想ディスクをログリス
	トア領域用ディスク(/dev/xxx)を指定します。

■ GUARDIANWALL設定	
GUARDIANWALLの設定します **の付いている項目は一必須入	す。 カです
	// //
情報管理者:	admin
*情報管理者バスワード	
*情報管理者パスワード	(再入力):
管理サーバライセンス:	
検査サーバライセンス:	
全文検索ライセンス:	
ログリストア領域設定:	○ ログリストア領域を設定しない
	○ ロクリストア 県場で設定9 る 「県域用ナイスク:
中止	(前へ) (次へ)

2.3.10. 設定内容確認

ここまで行ってきた設定内容が一覧表示(パスワードは(*)表示)されます。内容を確認し「次 へ」をクリックしてください。

「次へ」をクリックするとシステムへの反映が開始されます。



システムへの反映には数分程度かかります。

画面が切り替わるまで操作はおこなわないでください。

■ 初期設定P	內容確認		
	初期設定の内容を確認してください。		
	以下の設定でよろしければ、[次へ]ボタンをクリー 設定後にシステムは自動的に再起動します。	ックしてください。設定をおこないます。	
	[中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止し	システムをシャットダウンします。	
	■システム管理者バスワード設定 管理者名:	root	
	パスワード:	*	
	■ネットワーク設定		
			······
	バスリード:	*	
	管理サーバライセンス:	未設定	
	検査サーバライセンス:	未設定	
	全文検索ライセンス:	未設定	
	ログリストア領域設定:	ログリストア領域を設定しない	
中止			前へ次へ

2.3.11. システム再起動

初期設定が完了すると以下の画面が表示されます。システムは自動的に再起動します。

■システム再起動

初期設定を完了しました。 設定を有効にするために、システムを再起動しています。

2.4. AddPoint Manager

初期設定が完了しシステムが再起動した後は、稼動状況等の確認を AddPoint Manager で行うことができます。詳細については、『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の手引き』を参照してください。

AddPoint Manager は、AddPoint が設置されているネットワークにアクセス可能な Web ブラ ウザがインストールされているコンピュータから利用できます。

使用できる管理用クライアント PC については、「2.3.2 システム設定画面への接続」を参照してください。

Web ブラウザを起動した後、以下の URL を入力して AddPoint Manager を起動します。

【IP アドレスの場合】 http://IP アドレス:1446/addpoint/ 【ホスト名の場合】 http://ホスト名.ドメイン名:1446/addpoint/

AddPoint のサーバ名が addpoint.example.com であり、IP アドレスが 192.168.1.10 の場合、 以下のいずれかを入力してください。

http://192.168.1.10:1446/addpoint/ http://addpoint.example.com:1446/addpoint

3. 注意事項

本章では、AddPoint を使用するにあたっての注意事項についてご説明いたします。

3.1. 注意事項

3.1.1. VMware vSphereに関連する注意事項

- vSphere Client から連続して AddPoint の「OVF テンプレートのデプロイ」を実施する と、初期状態で割り当てられた IP アドレスの重複が発生し、正常に初期設定が行えま せん。「OVF テンプレートのデプロイ」は 1 システムごとに初期設定を完了させてから 実施してください。
- 2 AddPoint には、VMware Tools がインストールされていません。VMware Tools のインストールについては、「4.1.1 VMware Tools のインストール」を参照してください。

3.1.2. AddPointに関連する注意事項

- AddPoint で複数のネットワークインタフェースを使用する場合は、vSphere Client で ネットワークアダプタ2を有効になるよう設定を変更し、システム管理画面からネット ワーク情報を設定してください。設定変更については、「2.2.5 複数のネットワークイン タフェースの使用」を参照してください。。
- ② 以下のデバイスは使用できません。
 - テープデバイス
 - フロッピーディスク

3.1.3. GUARDIANに関連する注意事項

① 出荷時の AddPoint には、ログリストア領域用の仮想ディスクは追加されていません。 ログリストア領域を設定するには、事前に領域用の仮想ディスクを追加する必要があり ます。ディスクの追加については、「2.2.4 ディスクの追加」を参照してください。また、 ログリストア領域用ディスクの設定は初期設定完了後にも変更することが可能です。詳 しくは『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の手引き』の「4.1.システ ム設定の変更」を参照してください。

- ② AddPointは仮想ディスク「/dev/sda」にシステムがインストールされています。仮想ディ スクを追加すると、システムでは追加順に「/dev/sdb」「/dev/sdc」と認識されます。
- ③ 全文検索機能で使用するインデックスの生成は深夜帯などのシステムの負荷が低い時間帯に実施してください。全文検索インデックス作成については、 『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の手引き』の「2.3.3.全文検索 インデックス作成設定」や『GUARDIANWALL 全文検索システム利用の手引き』の 「1-2-3 拡張機能」を参照してください。 システムの負荷状態は、AddPoint Manager の「システム状態表示」で確認することが できます。詳細については『AddPoint/MailWallServer V7.2 for VMware ご利用の 手引き』の「3.2.4 システム状態表示」を参照してください。
- ④ GUARDIANWALL の「添付ファイル暗号化機能」での「暗号化 ZIP+パスワード」は使用できません。

4. 付録

本章では、その他補足事項についてご説明いたします。

4.1. 仮想マシン関連

4.1.1. VMware Toolsのインストール

AddPoint/MailWallServer for VMware のゲストOS に対して VMware Tools をインストールする手順について説明します。

- AddPoint/MailWallServer を起動します。インポートした仮想アプライアンス(仮想 マシン)を起動してください。
- ② 仮想アプライアンスの起動完了後、vSphere Client からインポートした仮想アプラ イアンスを選択し、「インベントリ」ー「仮想マシン」ー「ゲスト」ー「VMware Tools の インストール/アップグレード」を選択します。



③ 以下のようなポップアップ画面が表示されます。「OK」をクリックします。



- ④ ホストの「コンソール」タブをクリックし、コンソール画面を表示します。
- ⑤ ユーザ名とパスワードを入力し、ログインします。

⑥ 以下のコマンドを実行し、root 権限を取得します。

su -

⑦ 以下のコマンドを実行し、VMware Tools が格納されている領域をマウントします。

mount /dev/cdrom /media

⑧ 以下のコマンドを実行し、VMware Tools をシステムにコピーします。

cp /media/VMwareTools-<version>.tar.gz /tmp

⑨ 以下のコマンドを実行し、/tmp に移動します。

cd /tmp

⑩ 以下のコマンドを実行し、ファイルを展開します。

tar xzf VMwareTools-<version>.tar.gz

以下のコマンドを実行し、VMware Toolsのインストールを行います。

#./vmware-tools-distrib/vmware-install.pl

- ② 表示されるウィザードに従って設定値を入力します。
- ① イニシャライズが完了したら、インストールファイルを削除します。

rm -rf VMwareTools-<version>.tar.gz vmware-tools-distrib

④ 以下のコマンドを実行し、VMware Tools が格納されている領域をアンマウントします。

umount /media

15 インストール完了後、以下のコマンドを実行し root 権限を解放します。

exit

16 以下のコマンドを実行しログアウトします。

exit

4.2. クライアントPC関連

4.2.1. クライアントPCのネットワーク設定

[Windows XP]

① 「スタートメニュー」から「コントロールパネル」をクリックします。



② 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。



③ 「ネットワーク接続」をクリックします。

ネットワークとインターネット接続	
作業を選びます	
→ インターネット接続のセットアップや変更を行う	
▶ 感場のネットワークに接続する	
→ ワイヤレスのホーム ネットワークまたは小規模:	オフィス ネットワークをセットアップする
→ Windows ファイアウォールの設定を変更する	
コントロール バネルを選ん	で実行します
📦 Windows ファイアウォール	💯 インターネット オプション
😪 ネットワーク接続	ላህ) ወብヤレス ネットワーク セットアップ ウィザ 🎭 -ド

- ④ 「ローカルエリア接続」で右クリックし、表示されたメニューで「プロパティ」をクリックします。
- ⑤ 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

🕹 ローカル エリア接続のプロパティ 🔹 🥐 🔀
全般 詳細設定
接続方法:
■ Intel(R) PRO/1000 MT Mobile Connectio 構成(C)
この接続は次の項目を使用します(2):
 ☑ 鳥 Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有 ☑ 鳥QoS パケット スケジューラ

[]
伝送制御プロトコルイインターネット プロトコル。相互接続されたさまざまな ネットワーク間の通信を提供する、 既定のワイド エリア ネットワーク プロトコ ルです。
 ✓ 接続時に通知領域にインジケータを表示する(₩) ✓ 接続が限られているか利用不可能な場合に通知する(M)
ОК + +у/2/

⑥「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れ、以下の設定を入力し、「OK」をクリックします。

項目	設定値
IP アドレス	192.168.250.1 (192.168.250 内で重複しない IP アドレス)
サブネットマスク	255.255.255.0

⑦ 「OK」をクリックします。

インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロ/	ቻィ				? 🛛
全般					
ネットワークでこの機能がサポートされている場合 きます。サポートされていない場合は、ネットワー てください。	は、IP ク管理者	設定を 記述す	自動的(Dな IP ii	こ取得す 設定を問	ることがで い合わせ
○ IP アドレスを自動的に取得する(Q)					
○ 次の IP アドレスを使う(S):					
IP アドレスQ:	192	168	250	1	
サブネット マスク(山):	255	255	255	0	
デフォルト ゲートウェイ(<u>D</u>):					
○ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得	する(<u>B</u>)				
○ 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):					
優先 DNS サーバー(P):					
代替 DNS サーバー(<u>A</u>):					
				副羊糸田副会	定()
		(ок		キャンセル

[Windows Vista]

「スタートメニュー」から「コントロールパネル」-「ネットワークと共有センター」をクリックします。

-		
Internet Explorer		🧧 ウェルカム センター
S Microsoft Office Outlook		🦻 オフライン ファイル
📱 ウェルカム センター	毎 近 使 つ た 頃 日	======================================
旝 バックアップの状態と構成	コンピュータ	🍘 ゲーム コントローラ
🖸 Windows Media Player		🕒 コンピュータの簡単操作センター
🎥 スマート ビジネス リソース	接続先	🚽 サウンド
Windows Fax and Scan		
Windows Collaboration		🗾 🚡 スキャナとカメラ
in Windows Photo Gallery	既定のプログラム	👻 セキュリティ センター
🎇 Windows Live		🔜 タスク バーと [スタート] メニュー
1 ペイント	管理ツール	🎽 🊙 デバイス マネージャ
	ファイル名を指定して実行	ネットワークと共有センター
		い ハートウェアの追加
	a second second	バックアップと復元センター
▶ すべてのプログラム		■ パフォーマンスの情報とツール
		🔐 フォルダ オプション
検索の開始		1 フォント

② 表示された「ネットワークと共有センター」画面から「状態の表示」をクリックすると以下の画面が表示されますので、「プロパティ」をクリックします。

全般	
接続 ——	
IPv4 接続:	限定
IPv6 接続:	限定
メディアの状態	有効
期間:	00:29:34
速度:	1.0 Gbps
0T-0-0(-)	
動作状況———	
動作状況———	送信 — 🍂 — 受信
動作状況 パケット:	送信 — 受信 815
動作状況 パケット: (デフロパティ(P)	送信 — 受信 815 — 受信 () ⑦無効にする(D) 証2町(G)

③ 「インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリック します。



④「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れ、以下の設定を入力し、「OK」をクリックします。

項目	設定値
IP アドレス	192.168.250.1 (192.168.250 内で重複しない IP アドレス)
サブネットマスク	255.255.255.0

ネットワークでこの機能がサポートされてい きます。サポートされていない場合は、ネ	, いる場合は、IP 設 ットワーク管理者(定を自 こ適切れ	(動的に) な IP 設	取得する 定を問(5ことがで い合わせ
UNEOU»					
 ・ケーレスを目動的に取得する(C ・ケーロースドレフを(書う(S)) ・ケーロースドレフを(書う(S)) ・))				
 アドレス(1): 	192 .	168 .	250 .	1	
サブネット マスク(U):	255 .	255 .	255 .	0	
デフォルト ゲートウェイ(D):		9	8		
DNS サーバーのアドレスを自動的	(ご取)得する(B)				
● 次の DNS サーバーのアドレスを使	€う(E):				
優先 DNS サーバー(P):					
代替 DNS サーバー(A):		X	3		
				¥¢n≣&∓	

⑤ 「**OK**」をクリックします。



[Windows 7]

① 「スタートメニュー」から「コントロールパネル」をクリックします。



②「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。



③「ネットワークと共有センター」で「ローカルエリア接続」をクリックします。

④ 「インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリック します。

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
ネットワーク
接続の方法
Intel(R) PRO/1000 MT Mobile Connection
構成(C) この接続は次の項目を使用します(Q):
✓ 見 Microsoft ネットワーク用クライアント ✓ 見 QoS パケット スケジューラ
☑ ■ Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有 □ ▲ インターネット プロトコル バージョン 6 (TCP/IPv6)
 ✓ エインターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) ✓ エ Link-Layer Topology Discovery Mapper I/O Driver ✓ Link-Layer Topology Discovery Responder
^{EXUN} 伝送制御プロトコル/インターネット プロトコル。相互接続されたさまざまな ネットワーク間の通信を提供する、既定のワイド エリア ネットワーク プロトコ ルです。
OK 年ャンセル

⑤ 「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れ、以下の設定を入力し、「OK」をクリックしま す。

項目	設定値
IP アドレス	192.168.250.1 (192.168.250 内で重複しない IP アドレス)
サブネットマスク	255.255.255.0

インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティ 🔹 🔜 🔜
全般	
ネットワークでこの機能がサポートされている場 きます。 サポートされていない場合は、 ネットワー てください。	合は、IP 設定を自動的に取得することがで ーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせ
◎ IP アドレスを自動的に取得する(<u>0</u>)	
─◎)次の IP アドレスを使う(<u>S</u>):	
IP アドレス(I):	192 . 168 . 250 . 1
サブネット マスク(山):	255 . 255 . 255 . 0
デフォルト ゲートウェイ(<u>D</u>):	
● DNS サーバーのアドレスを自動的に取得	导する(<u>B</u>)
─● 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):	
優先 DNS サーバー(<u>P</u>):	
代替 DNS サーバー(<u>A</u>):	
🔲 終了時(ご設定を検証する(L)	■詳細設定(⊻)
L	

⑥ 「**OK**」をクリックします。

🎚 ローカル エリア接続のプロパティ
ネットワーク
接続の方法:
Intel(R) PRO/1000 MT Mobile Connection
構成(C) この接続は次の項目を使用します(Q):
 ✓ ● Microsoft ネットワーク用クライアント ✓ ■ QoS パケット スケジューラ ✓ ■ Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有
A Link-Layer Topology Discovery Responder
インストール(N)… 削除(U) プロパティ(B) 説明 伝送制御ブロトコル/インターネットブロトコル。相互接続されたさまざまな
ネットンーン面のが囲言を提供する、以定のシイトエリアネットソーソフロト」 ルです。
OK キャンセル

MEMO